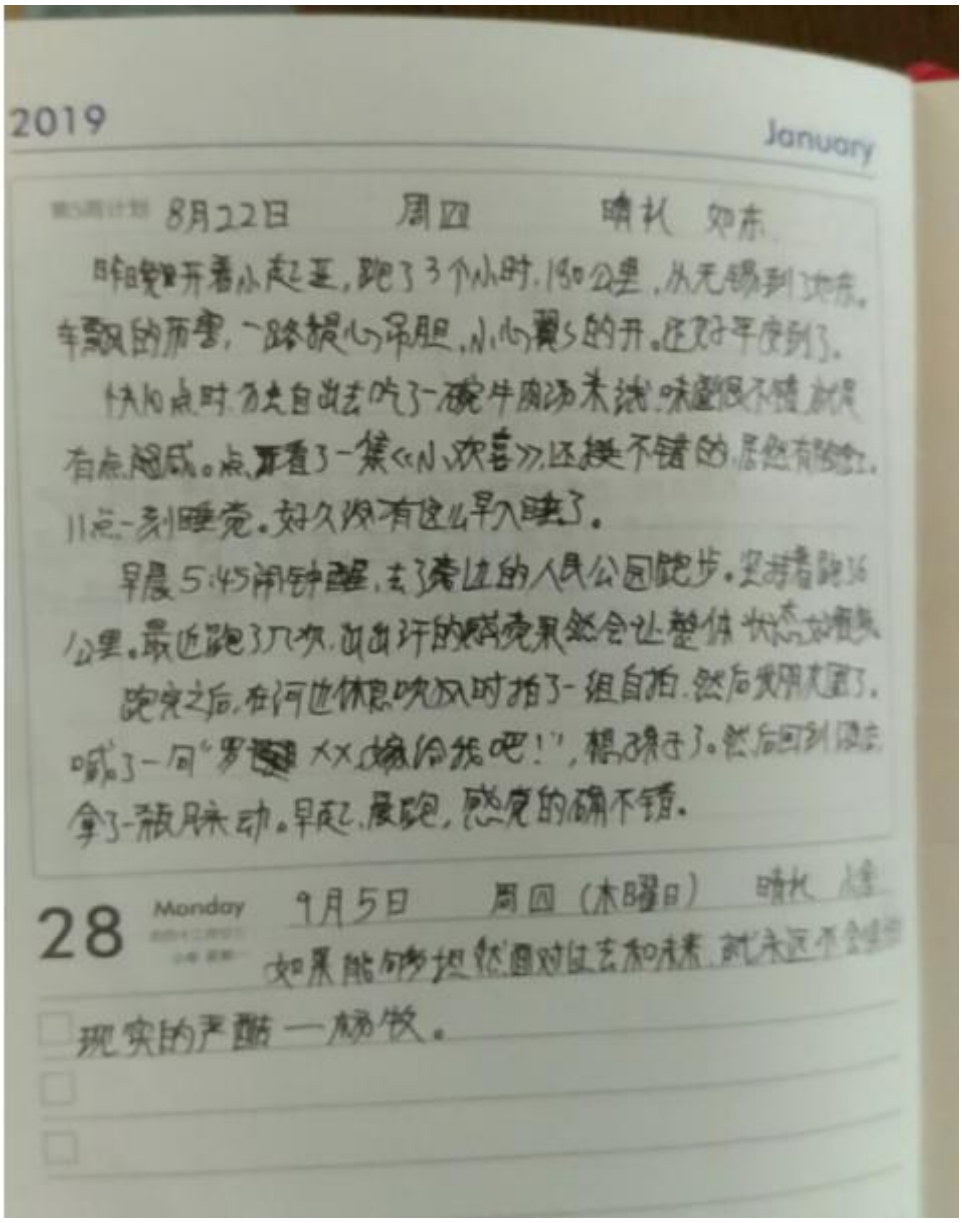
離婚後の鄧波が書いた日記で、狂ったように別の女性と結婚したかった。
彼は10年間、私にとっていつも見知らぬ人でした。彼はこの家族のために
一握りの野菜を買うことはなく、この家族に戻ることはめったにありません。
私たちが深センに住んでいたとき、彼は年に10日家にいませんでした。
私は離婚したときは、疲れて死にそうだったのですが、離婚してから1年くらいは
心が痛くなりましたが、今では一人でゆっくりと慣れてきて、気になりません。
私が彼を知らなかったみたいで、もう彼を叱る必要がありません。 彼は子供たちに
ビデオを連絡ことはめったになく、子供たちはもう彼と話したがりません。
私が子供たちにビデオを拾うように頼むたびに。

日本での離婚には、私が知っている2人の署名が必要です。最初に署名するのは
下川静です。その間、彼女は私を苛立たせ続け、できるだけ早く離婚するように
言いました。 2人目は署名後3か月で自殺した。 それは不動産の友達で、
彼から日本の家を買いました。
彼は自殺の1か月前に私の家に来て、DengBoがそんなに良心的なかったの人だとは知ら
なかったと言って私に謝罪しました。 よく生きるように言ってくださった。